

## 言語聴覚学科 シラバスの変更一覧

学年	ページ	開講科目
1年	71	臨床実習Ⅰ（見学実習）
2年	102	視覚言語論
2年	135	臨床実習Ⅱ（評価実習）
3年	168	臨床実習Ⅳ（総合実習後期）
3年	177-178	疾病論
3年	185-188	言語聴覚学特別講義Ⅰ
	201	言語聴覚学科 教員一覧

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-CLT-01				
	●	●	●	●						
科目名	臨床実習 I (見学実習)				単位認定者	櫻庭 ゆかり 渡邊 弘人 中川 大介 江畑 綾		実習先の評価： 知識・人物・適性	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	学内の評価： 準備・報告書等	50 %
					授業形態	実習	授業時間数		45 時間	
							授業回数		- 回	
授業の概要	<p>リハビリテーションの専門職につくための自覚を持つとともに、臨床の見学を通し、挨拶、時間の順守、態度を含めた社会人としての在り方、対象者の尊厳の理解、対象者とのコミュニケーションの取り方、接し方など言語聴覚士に必要な基本的資質を身につける。</p> <p>また、臨床現場における言語聴覚士の役割と位置づけ、他職種との連携などを通して、リハビリテーションチームとは何かを学修する。実習後には実習報告書の作成と報告会を行って、実習を振り返るとともにそれぞれの体験を分かち合う。さらには個人面談において、臨床実習指導者からのフィードバックを行いながら自らの今後の課題と目標を明確にする。</p>									
到達目標	<p>言語聴覚療法について具体的にイメージできる。社会人としての在り方を理解し、実行できる。言語聴覚士に求められる基本的資質を理解する。</p>									
学修者への期待等	<p>言語聴覚士の臨床活動の見学を通して、自身の足りない点を含め、自らと向き合ってもらいたい。そのうえで、次年度の学修における努力目標を明確にできることを期待する。</p>									
授業計画					準備学修			事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
<p>1. 実習期間 1単位 45時間 実習時期 9月4週～10月2週の間で1週</p> <p>2. 実習の目的 学内においては、グループワークを通じて、医療従事者としてふさわしい礼節や態度などについて考え、自然にできるよう身に付ける。実習施設において実際の臨床を見学することで、言語聴覚療法に対する認識を高める。また、他職種との連携などを通して、リハビリテーションチームとは何かを学修する。</p> <p>3. 実習の目標 (ねらい) 1) リハビリテーションの専門職に就くための自覚を持つ。 2) 他職種との連携などを通して、リハビリテーションチームとは何かを学修する。 3) 対象者とのコミュニケーションの取り方、接し方など言語聴覚士に必要な基本的資質を身につける。</p> <p>4. 実習計画 オリエンテーション 実習前3時間 実習後2時間 計5時間 1) 実習施設は言語聴覚士が治療業務に従事している医療機関、社会福祉施設とする。 2) 実習時間は従事する言語聴覚士の勤務時間に順じ、1日を8時間とする。 3) 実習施設でのオリエンテーションや言語聴覚士の臨床活動を見学する。 4) 毎日の実習日誌と指導者からの課題を提出し、指導を受ける。 5) 実習期間終了後、実習報告書を提出する。</p>					<p>事前学修：前期科目「学習の基礎」「医療概論」の講義資料を確認すること。それ以外の講義中に出された「言語聴覚士の仕事内容」「言語聴覚士の役割」「連携する多職種」について、まとめておくこと。</p> <p>事後学修：見学実習を通じて学修した「病院・施設の地域での役割」、「言語聴覚士の仕事内容」、「病院内外での言語聴覚士の役割」などについて、自分のまとめた実習報告書や実習報告会での他者の発表をもとに、各領域（失語・高次脳領域、聴覚障害領域、嚥下障害領域、構音障害領域、発達障害領域など）を整理する。</p>			60	90	
教科書	適宜紹介する。									
参考文献	適宜紹介する。									
備考	外部実習のフィードは実習終了後、口頭および書面にて学内実習の中で実施する。内部実習については、その都度口頭・書面にてフィードバックを行う。									

#### 実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は、臨床経験が30年以上の言語聴覚士が担当する。臨床経験を活かし、学生が見学実習においてより多くの学びを得るため、講義を展開する。

<b>科目ナンバリング</b>
ST-1-LAC-09

<b>学修成果</b>	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●		●	

<b>科目名</b>	視覚言語論				<b>単位 認定者</b>	山本 はづき		<b>評価の 方法</b>	試験(筆記)	100 %
<b>対象学科 必修・選択 配当年次</b>	言語聴覚学科	必修	2年	<b>開講時期</b>	後期	<b>単位数</b>	1 単位		試験(筆記)	100 %
					<b>授業形態</b>	講義	<b>授業時間数</b>			
						<b>授業回数</b>	8 回			
<b>授業の概要</b>	<p>通常、意思伝達に使われる「話す」「聞く」に依る言語体系を音声言語と呼ぶが、それに並ぶ言語体系として視覚による伝達がある。視覚言語には、文字、動作・表情語、点字、結縄文字、手信号、手旗信号、合図、情報内容が直感されるよう工夫した図形や絵、アイコン、スタンプなど、豊かな様式が広がっている。それらの手段は主たる手段としても補完的にも用いられる。多くの手段を知り活用することを通して、より柔軟な発想をもって言語のリハビリテーションに携わる能力を醸成する。</p>									
<b>到達目標</b>	視覚的な手がかりが必要な方に対し、コミュニケーション方法を習得していただきます。									
<b>学修者への期待等</b>	多様な困難を抱えながら生きる方について、その方の生活をイメージするきっかけになれば幸いです。									
<b>回</b>	<b>授業計画</b>					<b>準備学修</b>			<b>事前学 修時間 (分)</b>	<b>事後学 修時間 (分)</b>
1	視覚的な手がかりが必要になる方とは					事前学修：シラバスのご確認ください 事後学修：特に指定しない			5	0
2	聴覚障害					事前学修：前回の復習 事後学修：特に指定しない			5	0
3	筆談① 種類と方法					事前学修：前回の復習 事後学修：特に指定しない			5	0
4	筆談② 要約筆記、ノートテイク					事前学修：前回の復習 事後学修：特に指定しない			5	0
5	読話					事前学修：前回の復習 事後学修：特に指定しない			5	0
6	読解					事前学修：前回の復習 事後学修：特に指定しない			5	0
7	ジェスチャー、イラスト					事前学修：前回の復習 事後学修：特に指定しない			5	0
8	マカトン					事前学修：前回の復習 事後学修：特に指定しない			5	0
<b>アクティブ・ ラーニング</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）									
<b>教科書</b>	なし									
<b>参考文献</b>	なし									
<b>備考</b>	講義は全て遠隔（オンデマンド）で実施する。 オンデマンドのためリアルタイムでの質疑応答はできません。									

<b>実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)</b>	
人工内耳装用前後の聴覚障害児・者へリハビリテーションを行っていました。現場で行っていた重度聴覚障害児・者との関わりについてお伝えできればと思います。	

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-CLT-02				
	●	●	●	●						
科目名	臨床実習Ⅱ（評価実習）				単位認定者	櫻庭 ゆかり 渡邊 弘人 中川 大介 江畑 綾		実習先評価： 知識・人物・適正	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	4 単位	評価の方法	学内評価： 準備・報告書等	50 %
					授業形態	実習	授業時間数		180 時間	
							授業回数		- 回	
授業の概要	<p>実習前指導と合わせ、学生が医療チームの一員として臨床場面に参加しながら言語聴覚療法を経験し、評価のための技能と考察する能力を向上させることを目的とする。対象者の多様なニーズを汲み取り、全体像を把握するため、臨床実習指導者の指導のもとより臨床的に観察し、必要な検査を実施し、神経心理学敵特徴など問題点の抽出、治療プログラムの立案及び治療目標の設定ができるよう学修する。さらに、カンファレンスへの参加やカルテの作成などを通じて臨床現場の多様な業務を理解する。</p> <p>実習中の個人面談を通して、臨床実習指導者からのフィードバックと学生自身の評価を踏まえ今後の課題と目標について話し合う。</p>									
到達目標	適切な検査法を選択・実施し、総合的な評価ができる。さらに評価内容をまとめ、的確に説明することができる。									
学修者への期待等	自らの足りないところを明確にし、次の努力目標としてほしい。									
授業計画					準備学修			事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)	
<p>1. 実習期間 1単位 45時間 実習時期 1月4週～2月4週の間で4週</p> <p>2. 実習の目的 学内において、言語聴覚障害の状態を把握するための評価方法などをグループワークなどを通じて学修を深める。実習施設において、学生が医療チームの一員として臨床場面に参加しながら言語聴覚療法を経験し、評価のための技能及び考察能力を向上させる。</p> <p>3. 実習の目標（ねらい） 1) 治療プログラムの立案ができる。 2) 治療目標の設定ができる。 3) 言語病理学的診断を行い、問題点を抽出できる。</p> <p>4. 実習計画 オリエンテーション 実習前8時間 実習後7時間 計15時間 1) 実習施設は言語聴覚士が治療業務に従事している医療機関、社会福祉施設とする。 2) 実習時間は従事する言語聴覚士の勤務時間に順じ、1日を8時間とする。 3) 実習施設でのオリエンテーションや言語聴覚士の臨床活動を見学する。 4) 指導者の指導のもと、標準的な失語症検査あるいは構音検査を選択し実施する。 5) 長期目標の設定を行い、その根拠を考察する。 6) 毎日の実習日誌と指導者からの課題を提出し、指導を受ける。 7) 実習期間終了後、実習報告書を提出する。</p>					<p>事前学修：今まで学修してきた基礎科目、専門科目について、復習すること。特に評価実習において、患者様を評価することを念頭に人体のしくみや疾病とその治療方法、心理学、言語学、音声学、言語聴覚障害管理学、失語・高次脳機能障害学、言語発達障害学、発声発語・摂食嚥下障害学、聴覚障害学、地域言語聴覚療法学など、各領域について講義資料やしようしたテキストを用いて行うこと。</p> <p>事後学修：評価実習を通じて学修した「評価の実践」、「治療プログラムの立案」、「治療目標」、「言語病理学的診断、問題点の抽出」などについて、自分のまとめた症例報告書や症例報告会での他者の発表をもとに、担当した症例を振り返りを行うこと。</p>			120	120	
教科書	特に指定しない。									
参考文献	適宜紹介する									
備考	外部実習のフィードは実習終了後、口頭および書面にて学内実習の中で実施する。内部実習については、その都度口頭・書面にてフィードバックを行う。									

#### 実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は、臨床経験が30年以上の言語聴覚士が担当する。臨床経験を活かし、学生が評価実習においてより多くの学びを得るため、講義を展開する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-CLT-04					
		●	●	●							
科目名	臨床実習Ⅳ（総合実習後期）				単位認定者	櫻庭 ゆかり 渡邊 弘人 中川 大介 江畑 綾		臨床実習施設 評価	50 %		
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	4 単位	評価の方法	学内評価	50 %	
					授業形態	実習	授業時間数		180 時間		
					授業回数	- 回					
授業の概要	「臨床実習Ⅲ（総合実習前期）」の内容をふまえ、診療参加型による言語聴覚療法技能の向上を目指す。臨床実習指導者の指導のもと、対象者に一連の言語聴覚療法を提供しながら、臨床現場における言語聴覚士の役割と責任について理解し、チームの一員としての自覚を持って行動できるようになることを目標とする。実習中の個人面談を通して、臨床実習指導者からのフィードバックと学生自身の評価から、今後の課題と目標を考察する。さらには、実習後の症例報告作成と発表を通して臨床現場で身につけた知識の習熟を図っていく。										
到達目標	「臨床実習Ⅲ（総合実習前期）」の内容をふまえ、診療参加型による言語聴覚療法技能の向上を目指す。										
学修者への期待等	これまでの学修してきた内容の総括なるのが臨床実習Ⅳであるため、一つ一つの事柄に真摯に向き合い、自身の課題を見つけてもらいたい。										
授業計画					準備学修					事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
1. 実習期間 4単位 180時間 実習時期 6月3週～7月3週の間で4週 2. 実習の目的 「臨床実習Ⅲ（総合実習前期）」の内容をふまえ、臨床実習施設では、診療参加型による言語聴覚療法技能の向上をめざす。実習後、学内において、症例報告作成及び発表・ディスカッションを通じて、臨床現場で身につけた知識の習熟を図る。 3. 実習の目標（ねらい） 1) 臨床実習指導者の指導のもと、再評価を行うことができる。 2) 症例再評価をもとに、チームアプローチ、予後予測、転帰に絡めた支援の方法などを考察できる。 3) 臨床現場における言語聴覚士の役割と責任について理解し、チームの一員としての自覚を持って行動できるようになる。 4. 実習計画 オリエンテーション 実習後15時間 1) 実習施設は言語聴覚士が治療業務に従事している医療機関とする。 2) 実習時間は従事する言語聴覚士の勤務時間に順じ、1日を8時間とする。 3) 実習施設でのオリエンテーションや言語聴覚士の臨床活動を見学する。 4) 指導者の指導のもと、標準的な失語症検査あるいは構音検査などを選択し実施する。 5) 短期目標、長期目標の設定を行い、その根拠を考察する。 6) 指導者の指導のもと、治療プログラムを立案し、実施する。 7) 言語聴覚療法介入に関して考察する。 8) 再評価と再評価の考察を実施する。 9) 再評価の結果を踏まえて、治療プログラムを見直す。 10) 毎日の実習日誌と指導者からの課題を提出し、指導を受ける。 11) 実習期間終了後、臨床実習Ⅲまたは臨床実習Ⅳでの症例を選択し、実習報告書を作成し、提出する。					事前学修：これまで学修してきた専門基礎分野、専門分野の内容について、特に臨床実習にて患者・利用者へ評価・訓練することを想定して知識・技術を復習すること。総合実習前期（臨床実習Ⅲ）の振り返りを改めて行い、総合実習後期（臨床実習Ⅳ）での自らの目標を立てること。 事後学修：総合実習後期で学修した内容について振り返り、良かった点、改善すべき点を明確にすること。自分の症例報告書と症例報告会での他者の発表から、再度担当した症例について再考し、整理すること。					90	90
教科書	使用しない										
参考文献	適宜紹介する										
備考	外部実習のフィードは実習終了後、口頭および書面にて学内実習の中で実施する。内部実習については、その都度口頭・書面にてフィードバックを行う。										

#### 実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は、臨床経験が30年以上の言語聴覚士が担当する。臨床経験を活かし、学生が総合実習においてより多くの学びを得るため、講義を展開する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-3-SOC-08				
		●		●						
科目名	疾病論				単位認定者	渡邊 弘人 中川 大介 江畑 綾		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	小テスト (中間)	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
				授業回数		15 回				
授業の概要	各疾患の特徴から疾病の成り立ちや治療までをより深く理解することに重点を置く。これまで学修してきた基礎医学及び臨床医学、リハビリテーション概論、言語聴覚障害学と本講義を総合的・体系的に学ぶことにより、個々の対象者に適したリハビリテーションの選択ができる言語聴覚士を目指す。本講義では、臨床の現場で会うことの多い循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、腎・泌尿器疾患、内分泌・代謝疾患、中枢・末梢神経疾患、自己免疫疾患について、言語聴覚士がリハビリテーションを行う際に考慮すべき事柄、さらには支援について考える。									
到達目標	各種疾患と言語聴覚障害との関係を明確にし、理解を深める									
学修者への期待等	言語聴覚士が対峙する患者、利用者は少なからず合併症を有している。時には合併症がリハビリテーションに影響することもあるため、臨床で大変重要な知識である。ぜひ積極的・受動的に受講してもらいたい。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	腎臓、泌尿器の解剖生理とその疾患、症状 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。				事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。		30	60	渡邊 弘人	
2	内分泌・代謝疾患の解剖生理とその疾患、症状 適宜グループワーク、ディスカッションを行う。				事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。		30	60	渡邊 弘人	
3	自己免疫疾患の解剖生理とその疾患、症状 適宜ディスカッションを行う。				事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。		30	60	渡邊 弘人	
4	循環器疾患の解剖生理とその疾患、症状 適宜ディスカッションを行う。				事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。		30	60	渡邊 弘人	
5	言語聴覚障害と各種内科的疾患の関係 適宜ディスカッションを行う。				事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。		30	60	渡邊 弘人	
6	神経系の解剖・生理、神経学的検査				事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。		30	60	中川 大介	
7	神経症候学(意識、脳神経系、運動系、感覚系、反射、髄膜刺激症候)				事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。		30	60	中川 大介	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
8	臨床神経学各論1 脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍、中枢神経系感染症	事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。	30	60	中川 大介
9	臨床神経学各論2 神経変性疾患、認知症、水頭症、脱髄疾患	事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。	30	60	中川 大介
10	臨床神経学各論3 末梢神経障害、筋疾患および神経筋接合部疾患、代謝性疾患、その他疾患	事前学修：配布資料を読み、問題を解くこと。 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること。	30	60	中川 大介
11	循環器疾患① 心疾患について 適宜ディスカッションを行う	事前学修：配布資料を読むこと 事後学修：関連過去問題を解くこと	30	60	江畑 綾
12	循環器疾患② 脳血管疾患について 適宜ディスカッションを行う	事前学修：配布資料を読むこと 事後学修：関連過去問題を解くこと	30	60	江畑 綾
13	呼吸器疾患① 肺がん COPD 肺炎 など 適宜ディスカッションを行う	事前学修：配布資料を読むこと 事後学修：関連過去問題を解くこと	30	60	江畑 綾
14	呼吸器疾患② 呼吸器感染症、睡眠時無呼吸症候群 など 適宜ディスカッションを行う	事前学修：配布資料を読むこと 事後学修：関連過去問題を解くこと	30	60	江畑 綾
15	消化器疾患 食道炎、胃・十二指腸潰瘍・胃炎・過敏性腸症候群	事前学修：配布資料を読むこと 事後学修：関連過去問題を解くこと	30	60	江畑 綾
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク ディスカッション）				
<b>教科書</b>	『2027年版 言語聴覚士国家試験過去3年分の問題と解説』大揚社 2026年7月頃発売予定 『言語聴覚士国家試験 必須ポイント2025 ST専門科目』医歯薬出版 『言語聴覚士国家試験 必須ポイント2025 ST基礎科目』医歯薬出版				
<b>参考文献</b>	なし				
<b>備考</b>	授業内課題は、採点後に返却しフィードバックを行う。				

#### 実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は臨床経験15年以上の言語聴覚士である。臨床経験を活かし、学生が言語聴覚士が関わる事の多い疾患について、理解を深め、臨床現場に繋がる講義を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-3-SOC-14				
	●	●	●	●	●					
科目名	言語聴覚学特別講義 I				単位認定者	渡邊 弘人 中川 大介 江畑 綾		評価の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	自由	3年	開講時期	通年	単位数	2 単位			
						授業時間数	60 時間			
				授業形態	講義	授業回数	30 回			
授業の概要	<p>言語聴覚士の仕事は、多くの基礎的分野に関する知識の上に成り立つ。本講義では、専門支持科目で学んできた内容について総合的に復習し、言語聴覚士の幅広い臨床に対応できる人材を目指す。</p> <p>専門支持科目で学修した臨床歯科医学、呼吸系の構造・機能・病態、音声学、言語学について、総合的に復習し、言語聴覚士の臨床に対応できる人材を目指す。</p>									
到達目標	専門支持科目で学んできた内容について総合的に復習し、専門展開科目とのつながりについて理解を深める									
学修者への期待等	専門支持科目を中心として言語聴覚療法を総合的に見直していく。3年間のおまとめとして重要な内容となるため、積極的な受講を望む									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	医学総論				事前学修：STテキストP2～7を読んで、わからない言葉は調べること。 事後学修：配布する確認問題を実施すること。		60	60	中川大介	
2	解剖学・生理学 運動器系・循環器系				事前学修：STテキストP8～14を読んでわからない言葉は調べること。 事後学修：配布する確認問題を実施すること。		60	60	中川大介	
3	解剖学・生理学 呼吸器系・消化器系 内分泌系				事前学修：STテキストP14～27を読んでわからない言葉は調べること。 事後学修：配布する確認問題を実施すること。		60	60	中川大介	
4	解剖学・生理学 神経系・感覚系				事前学修：STテキストP29～36を読んでわからない言葉は調べること。 事後学修：配布する確認問題を実施すること。		60	60	中川大介	
5	病理学 炎症、遺伝、免疫				事前学修：STテキストP37～43を読んでわからない言葉は調べること。 事後学修：配布する確認問題を実施すること。		60	60	中川大介	
6	内科学 循環器疾患 など				事前学修：STテキストP45～55を読み、復習すること 事後学修：関連過去問題を解くこと		60	60	江畑綾	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
7	内科学 呼吸器疾患 など	事前学修：STテキストP45～55を読み、復習すること 事後学修：関連過去問題を解くこと	60	60	江畑綾
8	小児科学 小児神経疾患、神経筋疾患	事前学修：STテキストP56～69を読み、復習すること 事後学修：関連過去問題を解くこと	60	60	江畑綾
9	精神医学	事前学修：STテキストP70～79を読み、復習すること 事後学修：関連過去問題を解くこと	60	60	江畑綾
10	リハビリテーション医学	事前学修：STテキストP80～85を読んでわからない言葉は調べること。 事後学修：配布する確認問題を実施すること。	60	60	中川大介
11	耳鼻咽喉科学 耳科学 適宜グループワーク・ペアワークを行う。	事前学修：配布資料をよみ問題を解くこと 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること	30	60	渡邊弘人
12	耳鼻咽喉科学 口腔・咽頭科学	事前学修：STテキストP93～102を読み、復習すること 事後学修：関連過去問題を解くこと	60	60	江畑綾
13	耳鼻咽喉科学 喉頭科学、気道食道科学	事前学修：STテキストP93～102を読み、復習すること 事後学修：関連過去問題を解くこと	60	60	江畑綾
14	臨床神経学 神経系の解剖・生理	事前学修：STテキストP103～108を読んでわからない言葉は調べること。 事後学修：配布する確認問題を実施すること。	60	60	中川大介
15	臨床神経学 神経学的検査 神経症候学	事前学修：STテキストP103～110を読んでわからない言葉は調べること。 事後学修：配布する確認問題を実施すること。	60	60	中川大介
16	臨床神経学 脳血管障害など	事前学修：STテキストP110～123を読んでわからない言葉は調べること。 事後学修：配布する確認問題を実施すること。	60	60	中川大介
17	形成外科学 口唇・口蓋裂	事前学修：STテキストP124～133を読んでわからない言葉は調べること。 事後学修：配布する確認問題を実施すること。	60	60	中川大介

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
18	臨床歯科医学、口腔外科学	事前学修：STテキストP134～143を読み、復習すること 事後学修：関連過去問題を解くこと	60	60	江畑綾
19	認知・学習心理学(古典的条件付け、オペラント条件付け)(視覚、記憶の効果) 適宜グループワークを行う。	事前学修：配布資料をよみ問題を解くこと 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること	30	60	渡邊弘人
20	臨床心理学	事前学修：STテキストP155～159を読み、復習すること 事後学修：関連過去問題を解くこと	60	60	江畑綾
21	生涯発達心理学(新生児、乳幼児期)	事前学修：STテキストP160～167を読んでわからない言葉は調べること。 事後学修：配布する確認問題を実施すること。	60	60	中川大介
22	生涯発達心理学(児童期、青年期、老年期)	事前学修：STテキストP160～167を読んでわからない言葉は調べること。 事後学修：配布する確認問題を実施すること。	60	60	中川大介
23	心理測定法	事前学修：STテキストP168～172を読んでわからない言葉は調べること。 事後学修：配布する確認問題を実施すること。	60	60	中川大介
24	言語学；言語構造，意味論など	事前学修：STテキストP174～189を読み、復習すること 事後学修：関連過去問題を解くこと	60	60	江畑綾
25	音声学	事前学修：STテキストP190～202を読み、復習すること 事後学修：関連過去問題を解くこと	60	60	江畑綾
26	音響学	事前学修：配布資料をよみ問題を解くこと 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること	30	60	渡邊弘人
27	聴覚心理学 適宜グループワークを行う。	事前学修：配布資料をよみ問題を解くこと 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること	30	60	渡邊弘人

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
28	言語発達学	事前学修：STテキストP219～224を読んでわからない言葉は調べること。 事後学修：配布する確認問題を実施すること。	60	60	中川大介
29	言語発達学(学童期)のまとめ	事前学修：STテキストP219～224を読んでわからない言葉は調べること。 事後学修：配布する確認問題を実施すること。	60	60	中川大介
30	聴覚機能全般（聴覚解剖と生理、音の処理） 適宜グループワークを行う。	事前学修：配布資料をよみ問題を解くこと 事後学修：提示資料と配布資料を確認し、復習すること	30	60	渡邊弘人
<b>アクティブ・ラーニング</b>	<input type="checkbox"/> 該当なし <input checked="" type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（グループワーク、ペアワーク）				
<b>教科書</b>	『言語聴覚士国家試験 必須ポイント2026 ST専門科目』医歯薬出版 『言語聴覚士国家試験 必須ポイント2026 ST基礎科目』医歯薬出版 『2027年版言語聴覚士国家試験過去問題3年間の解答と解説』大揚社 2026年7月頃発売予定 『言語聴覚士テキスト 第4版』医歯薬出版 編著大森孝一				
<b>参考文献</b>	なし				
<b>備考</b>	授業内課題は、採点後に返却しフィードバックを行う。				

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

担当教員は、臨床経験15年以上の言語聴覚士である。臨床経験を活かし、学生が患者・利用者の抱える言語聴覚障害を深く理解するための基礎的な知識を再確認し、臨床現場に繋げられるような講義とする。

言語聴覚学科 教員一覧

	職位	氏名	研究室	電話番号	E-mail
1	教授 (学科長)	さくらば 櫻庭 ゆかり	共同 研究室	022-302-5591	y_sakuraba@seiyogakuin.ac.jp
2	特任教授	すずき かずき 鈴木 一樹	鈴木 研究室	-	kz_suzuki@seiyogakuin.ac.jp
3	准教授	わたなべ ひろと 渡邊 弘人	共同 研究室	022-302-5591	h_watanabe@seiyogakuin.ac.jp
4	講師	なかがわ だいすけ 中川 大介		022-302-5591	d_nakagawa@seiyogakuin.ac.jp
5	助教	こまつ ゆき 小松 有希		022-302-5591	yu_kimura@seiyogakuin.ac.jp
6	助教	えばた あや 江畑 綾		022-302-5591	a_ebata@seiyogakuin.ac.jp